

全身性エリテマトーデスの発症関連環境要因： 系統的レビュー根拠に基づく医学 (EBM): 社会医学実習

田中 景子¹⁾ 前田 洋美²⁾ 恒吉 研吾²⁾
片岡 文²⁾ 杉山 美樹²⁾ 川野 裕康²⁾
呉村 有紀²⁾ 泉谷 義人²⁾ 和田 健司²⁾
三宅 吉博¹⁾

1) 福岡大学医学部公衆衛生学

2) 福岡大学医学部3年生

要旨：今回我々は、社会医学実習の一環として、根拠に基づく医学の実際を学んだ。対象疾患として全身性エリテマトーデス (SLE) をとりあげ、発症関連環境要因に関するエビデンスをまとめた。科学論文検索システムである PubMed を活用し、環境要因と SLE との関連に関する疫学論文を検索した。最新のものから過去15年までさかのぼって、合計32編の原著論文を収集した。環境要因として、身長や体重といった身体状態、喫煙や飲酒等の生活習慣、既往歴、家族歴、アレルギー、服薬状況など、様々な要因について検討されていた。しかしながら、統計学的に有意な関連を示した要因は少なく、関連がみられないと報告された要因が多かった。喫煙や飲酒については比較的多くの論文で検討されており、喫煙との間には正の関連、飲酒との間には負の関連を報告した論文が多かった。閉経後のホルモン投与が SLE の発症リスクを高めていると報告している論文が多かった。また、SLE の家族歴はリスクを高めていそうである。今回検討した論文の多くは欧米人を対象とした研究で、日本人を対象とした研究は少なかった。欧米人を対象とした研究結果がそのまま日本人にも当てはまるかは定かではない。日本人の SLE 発症の環境要因を検討するためには、今後、日本人におけるエビデンスの蓄積が重要になるであろう。

キーワード：環境要因，系統的レビュー，全身性エリテマトーデス